

学校番号	24	学校名	静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校	校長名	松本 仁美
------	----	-----	----------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見など
安全・安心	安全で安心して生活できる環境づくり	・役割や方法を全教職員が理解し、対応することができた。	A	A	・適切。
		・生徒に防災、防犯の備えが身についた。	A	A	・避難訓練を繰り返し行い自分で判断して行動できるようになった。 ・避難後の生活訓練や学習も大切。 ・参加型の防災訓練ができるとよい。（地区、所属市町、松高）
		・生徒の意思や行動を大切にするなど人権を尊重した教職員の関わりができた。	A	A	・一人一人に向き合い個性を生かした指導ができています。
		・互いを認め合う生徒同士の関わりが育った。	B	A	・人数が少ない分、一人一人の関わりが深い関係になっている。
	心身ともに健康に生活できる意識・習慣の確立	・生徒が運動の良さがわかり、積極的に運動に取り組んだ。	A	A	・朝の運動、部活動の時間をさらに増やしたい。
		・生徒が保健指導で学んだことを日々の生活に活かした。	A	A	・適切。
専門性	自立と社会参加を目指した教育（キャリア教育）の充実	・生徒が自己の目標を理解し、各授業、実習に臨み、自己評価と改善に取り組んだ。	B	A	・実習ではいろいろな場所に出向き体験や作業をすることによって様々なことを学んでいる。
		・生徒が適切に自己表現するとともに学習に前向きに取り組んだ。	B	A	・適切。
	学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実	・教職員間で生徒の実態（アセスメント）や目標、各教科等の関連性を共通理解するとともに新学習指導要領に基づいたPDCAサイクルでの授業改善を行った。	A	A	・適切。
専門性	特別支援教育に関する専門性の向上	・教職員が研修等で学んだことを共有するとともに同僚への指導・助言を行い生徒の指導に活かすことができた。	A	A	・適切。
連携	生徒の個性を生かし多様な人々との協働を促す「共生・共育」の充実	・松崎高校との交流及び共同学習で互いを理解、尊重し、自ら協働的な活動に参加する生徒を育んだ。	B	A	・松崎高校との交流によって、分校生徒とのつながりが強くなっている。
		・地域の人や関わる人々の共生・共育についての理解や意識が高まるよう教職員が目標を共有し連携、協働した。	A	A	・地域に対する活動をしてもらい地域の人も感謝している。教員にも休日の地域の活動に参加してもらいありがたい。 ・田植え稲刈りをはじめ、これから

様式第5号

					も続けていきたい。
	保護者、地域関係機関との行動連携の推進	・進路や地域福祉、関係機関等に関する保護者の意識が高まった。	A	A	・施設訪問や企業への訪問の場を広げてほしい。 ・徒歩による目的場所と学校の往復の難しさ。 (エリアの限定、時間のロス)
		・本校の教育や生徒への理解が地域や関係機関に広がった。	A	A	・地域活動が学校と地域のいいつながりになっている。
	特別支援教育のセンター的機能の充実	・小・中学校等に機能が周知され、児童生徒、学校等への支援実績を積み重ねた。	A	A	・小中学校の花壇に花を植える活動で分校の周知向上につながる。
	働きがいのある学校にするための業務改善の推進	・教職員が役割を理解した協働、タイム・マネジメント、受援力（援助要請等能力）を高め、学校経営計画の実施に向けて協働した。	B	A	・適切。
チーム学校	信頼される学校づくりのための意識向上	・教職員が分校の価値や所属意識を感じるとともに、不祥事、交通加害事故、交通違反ゼロに取り組んだ。	A	A	・一人一人に目を配り安全な見守りができている。 ・指導方法や研修の確立を図りながら、所属意識や協働の意識を高め支え合う関係を構築する。